

**金子：** どっちも積もっていくと思うんですね、悪いことも積もっていくし、いいことも積もっていく。基本、悪いことのほうが積もっていく気がして、だったらいいことを少しでも積み重ねていった方が、後々の悪いことは減るんじゃないかなと思う。今日、仕事で疲れて辛いけど、ここ一個無理して頑張っ、一個でいいんですよ、一個頑張れば、少しでも奥さんの気持ちのケアができると思うんです。でも、洗い物とか、お風呂入れるのも、正直面倒くさいときありますよ。

**司会：** そう聞くとちょっとほっとします(笑)。

**金子：** それは奥さんの方も一緒だと思う。だから、今日ちょっと疲れてそうだなとか、なんか今日ちょっとイラッとしてそうだなと思ったら、言われる前に気づくようにしてますね。知り合いのママ友が、「言ってくれないとわかんないよね」みたいな話をしてたんです。「言う前に動いてほしいよね」というのを聞いて、そうかと。最近はやられる前に動くように頑張ってます。

**司会：** 家事で、金子さん家にいるときの役割分担みたいなのは、これは自分がやるっていうのはあるんですか？

**金子：** 基本、お風呂場掃除と子どもをお風呂に入れること、トイレの掃除、ご飯を食べるときのテーブルセッティング、食事前に子どもを席に座らせて食べさせる準備は僕がしてます。で、うちの妻が料理を運んだり、盛り付けたりとかするんで。

**司会：** 今日、会場に来ているお父さんたちの仕事が増えそうですね。あれ任せちゃおうかなとか。

**金子：** たまに、もうそれ以上しゃべらないでっていわれるときがあります。でも、僕は食卓をみんなでセッティングするとか盛り上げた方が楽しいと思う。器とかお箸とかが好きなので、今日のご飯にはこういうランチョンマットとか、そういうのを選ぶのは自分からやります。結局、仕事をしていると家族みんなが集まるのってご飯のとくくらいだと思う。だから晚ご飯の場はすごく充実した場所にしたいくて、そういう意味ではなんかまったく苦にならないですね。



**司会：** その辺の食事の話もこちらの本に書いてあります。陶器を作ったりとか、お箸作りを趣味にされているそうですね。

**金子：** やっぱり自分が一生懸命作ったものって大事にするじゃないですか。親が何かを作って、それで生活している姿を子どもが見ると、ものを大切にしてくれるんじゃないかなと思って。

**司会：** 料理に関しては、どんなものをどういう風に金子家では作っているんですか？

**金子：** 基本、日常では冷蔵庫の余り物で作るようにしています。なんかイベントごとがあったりすると、おすしを握ったりとか。ちょっとおすし屋さんみたいな格好して握ったりもします。あとは、タンシチューとか、ラーメンを一から作ったりとかもします。豚骨を買ってきて10時間くらい煮込み、和風だしとのダブルスープで、しょうゆダレとかも作ったり。あとパンを焼いたりと

か、いろいろやってます。

**司会：** それは結婚される前からともと好きだったんですか？

**金子：** 料理は好きで、食べたいものを食べたい分だけ作りたいたいですよね。小学校2年生くらいのときに、初めてホットケーキの大きいのを食べたいと思って焼きました。そのあとは茶碗蒸をボールいっぱい食べたいと思って作ったりとか。昔から食べるの好きなので。

**司会：** 妊娠がわかってから出産までの間で、奥様を支えていく中で、比べてはいけないうことをこの本の中で書かれていました。これはちょっと重い言葉だと思ったんですけど、これはどういう実感から出てきた言葉なんですか。

**金子：** 妊娠しているときって、奥さんはどうしても家事が多少おそろかになることがあるじゃないですか。こういう言い方あれですけど、あまり自分がやってあげすぎもよくないのかなと思って。あるとき、このくらいどここのお母さんやってたよって言ったら、泣いて怒られました。私はこんなに一生懸命頑張っているのにつて。そのとき、比べちゃいけないなと思いましたね。奥さんなりにやっていると思うので、まずそこを認めてあげてちゃんと褒めてあげなきゃいけないんだなって。たまに褒めてほしいアピールされますけどね。今日も家出てくるときに、マンションの理事会があるらしくて、「私、今日ちゃんと出るんだ」といわれてたんで、「あつ、えらいね」といってあげた(笑)。何年たっても、「ありがとう」とか、「すごいね」とか、そういうことは言ってくれないといけないのかなって、また今日改めて思いましたね。

**司会：** あと比べちゃいけないところでは、育児に対してでも、子どもに対してもこの言葉って大きいと思うんですけど。

**金子：** うちの子は歩くの遅かった。1歳と5ヶ月でやっと一歩あるいたくらいだった。周りの子は走り回ってたんで、やっぱり僕も気にしてたし、うちの妻も気にしてたんです。でもそれを家ではお互い言わないようにしていましたね。だからって支障があるわけでもないですし、ハイハイをいっぱいした方が体にはいいと聞いていたので、だからいい意味で考えるようにしました。できないことが悪いじゃなくて、できないからこそいい方向に向いているものが何かあると、そこに気づくようにしましたね。

**司会：** 奥さんもストレスを抱えて出産に向かってく中で、金子さん自身も本の中でパバニティブルーって言葉を使われてます。ちょっと厳しい時期があったようですが。

**金子：** 芸能界の仕事は浮き沈みが激しいんで、そういう意味で子どもが成人するまで、一人前になるまで、ちゃんと父親できるのかという不安ですね。僕が15歳くらい、高1のときに、家はクリーニング屋さんやってたんですけど、つぶれちゃったんですよ。父からもう育てられないっていわれて、そこから一人暮らしをはじめたんです。僕ももしかして蠟良くんが15、16歳になったときに、そうなる可能性はなくはないと考えたり、心配になって寝られなかったことがありました。でも、うちの妻が、大丈夫だからってすごい慰めてくれた。普通逆だろうって話なんですけど、「大丈夫、大丈夫」ってすごい言ってくれてたんで、自信もってできるようになりました。

**司会：** 2008年の12月18日に誕生されたんですよね。そのときの、出産のときの思い出はどんなものがありますか？

**金子：** ギリギリまで病院で付き添ってました。前駆陣痛がはじまって、ずっとさすったりして、陣痛が変わるまでが6時間くらいありました。陣痛始まったくらいのおきにちょうどバラエティの収録現場に行かなくちゃいけなくなると、本番中ずっと「大丈夫かな、大丈夫かな」みたいな感じでした。それで、休憩中にマネージャーに「どう？」っていったら、すごい暗い顔で「貴俊さん、生まれました」と言うんですよ。暗い顔で言うんで、生まれたけど無

事じゃないのかみたいなの、もうすごい心配でした。終わって駆けつける、元気に生まれてたんでほっとしました。人生であんなうれしかったことないですね。何よりも、一番妻をいとおしく思いました。今迄が一番いいなって思った瞬間ですね。ははあみたいなの、ありがとうって。子どもより先に、妻にいきましたね。

**司会：** それも二人で一緒にやってきた気持ちの現れなのかもしれないですね。

**金子：** 今もそうですけど、生まれても僕の優先順位は1番は妻なんです。妻が楽しくなかったりとか、楽しんでないと、子どもも楽しくないじゃないですか。なので、子どもは2番目にしてるんです。

**司会：** 出産直後に、奥様がまたすぐ生みたいとおっしゃったと本に書いてあって、これもちょっと驚いたんですけど。

**金子：** 僕は、もうすごいうれしかったですね。二度と生みたくないとかいわれたら、自分もすごい責任を感じてしまう。なので、その言葉をもらったときは、妊娠中にできる限り協力してよかったなって思いました。僕もその言葉もらえて、余計子育て頑張りたいって思いましたし、より子どもがいとおしくなりましたね。

**司会：** 10ヶ月間こういうふうに関わってきて、よかったと思えた瞬間でもあるんじゃないですか。

**金子：** そうですね。マッサージとか、からだのケアとか気持ちのケアとかしてみて、子どもに対する意識って妊娠中に高まっていったと思うんですよね。その点で、父親としての自覚が生まれやすかったかなと思います。

**司会：** いま役者の仕事されてて、この経験で子どもから学ぶこともあるとおっしゃってましたが、そのあたりの思っているのはいかがですか？

**金子：** 子どもを見ていると、まず自分の癖とかがわかります。あとは最近、台詞のあわせとかも付き合ってくれる。僕が台本読みながら台詞をしゃべっていると反応してくるんです。反応するってことは普通に話しているように聞こえているって証拠なので、それはたぶんリアルに成立している芝居だと思って納得してます。あとは絵本の読み聞かせなんかは、0歳のときから2歳になるくらいまでは、なるべく一日15冊くらい本を読んであげました。その言葉でも、いろんな音だったり、声色だったり、読み方で表現を試せるので、そういう意味でもお芝居の稽古になってるのかなと思いますけどね。

**司会：** 子どもは、無垢な状態で言葉を受け止める立場ですからね。お世辞言ったりとかもないでしょうね。「今の台詞よかったよ」なんて思ってもないのに言うなんてことできない存在ですもんね。

**金子：** 最近、2時間ドラマとかで刑事役とかやると、普通に一緒に刑事役やってます。台詞は言わないんですけど。何時何分どこどこで死体が発見されたみたいなこといってると、うんうんって言うてる。やっぱ僕の子どもだなあとか思ったりしますね。

**司会：** この本は蠟良くんにとってもいい記念になるのでは、そのあたりは。

**金子：** こういう本を出さなくても、子育てのブログをやられている方がいると思う。やはり親が子どもに対する思いをちゃんと書いておくといいですよ。僕の場合は親が離婚してたので、親に愛されているのになっていう心配を抱えてた時期がありました。そういう時期に親がこういう思いで育ててくれたってわかるものがあると、たぶん挫折したときとか、自信をなくしたとき、もう一度立ち上げられるきっかけになるんじゃないかなと思います。「あつ、こんなにお父さんとお母さん考えてくれてたんだ」とってわかったら、子どもはたぶん頑張らなきゃって思うはずですよ。

**司会：** こうやって本を書かないまでも、妊娠中の話ってのは子どもたちに伝えたい方がいいのかもしれないですね。

**金子：** 自分がすごく望まれて生まれてきたのは、生きていくうえで絶対になく

ならない自信だと思う。お母さんから、「何で生まれてきたのか、生まれなければよかったのに」と言われた子とかも世の中にはいると思うんですよ。そうすると、本当に自分の存在を否定してしまうと思うので、そういう意味でも望まれてきた証拠をいっぱい残してあげたい。

**司会：** 蠟良くんが生まれるまでの経験を本に書かれていますが、生まれてからの育児への関わり方というのは、自分としてはどう意識してどんなふうに関わっていますか？

**金子：** 一番は、何回もいうようですけど、妻の環境ですかね。子育てしやすい環境を作ってあげる。マタニティの期間もそうなんですけど、お父さんってたぶん演出家とか監督みたいなことなんじゃないかな。家庭を守るためには、ある程度家庭を演出していかなければいけないと思う。奥さんはたぶん主役なんですよ、女優なんですよ。やっぱりどこかお姫様願望というか、だからそういうところも作ってあげないと、女性としての張りも忘れてしまうと思いますし、旦那さんも奥さんにずっときれいでいてほしいと思うので、そういったところで奥さんを中心にしていう感じですね。空気見て動いてます。洗い物とかでも、コップを置く音とかで、あつ、今日疲れてるのかな。そしたらちょっと近づいていって何かしようかとか、常にアンテナ張ってますね。

**司会：** 率直に思うんですけど、奥さんと喧嘩されたりということはあるんですか？

**金子：** ありますよ。この間喧嘩したのは、蠟良くんに飲ます水の量が喧嘩しました。食事中に蠟良くんの水がなくなったので、僕が注ぎにいったんです。食事中なのでなるべくママにも座っててもらいたいじゃないですか。なので、また水を入れにいくために立たなくて済むように、僕はコップにいっぱい水を入れてきたんです。そしたら、ママはそんな量入れてきたら、こぼすでしょって。僕はそれは見てあげてればいいんじゃないかって喧嘩になりました。僕は、少しでも席を立たないようにしてあげるために入れてきたのにつて。向こうは、こぼしたらそれを掃除しなきゃいけない、よけい大変になるって。その食い違いってのがありましたね。でもどっちがいいのかいまだに答えが出ていません。

**司会：** そういう瞬間、強く言い返すんですか金子さんも。

**金子：** 強く言うときは言いますけど、強く言えてないかもしれないです(笑)。

**司会：** いろいろな家庭があるかと思うんですけど、あんまり女性に強く言うよりは、女性が握っている家庭が多いのかなあと感じますか。

**金子：** すごくおっけい夫婦喧嘩をしたとき、たまに男の人だと、「出て行け」というじゃないですか。僕は「出て行け」が言えないんですよ。「出て行く」といいますから。周りをちょっと散歩して頭冷やして帰ってくるんです。行き先、言いますから。

**司会：** でも一人で過ごしたいなあとか、自分の時間がほしいなっていう風に思うことないですか？

**金子：** ありますね。たまには一人でちょっと焼き鳥屋さん行きたい。逆に、僕が子ども見てるから、妻にも女子会などに出かけていってほしい。そうすると、僕もちょっと一人で気晴らしに飲みに行くのも行きやすくなりました。そうバランスとってますね。僕は仕事上、忘年会とか多いじゃないですか。結婚して子ども生まれたから、忘年会いけないうのもおかしい。なので、僕が行った回数分は妻も出かけています。それでバランスとってます。

**司会：** それはお互いのルールというか、暗黙の了解があればうまくいくんでしょうね。

**金子：** また、僕は子どもと二人っきりになれる時間がすごい好きなんです。ここで株上げないといけないというか。やっぱり、どうしても子どもはママが好きなんですよ。一回だけ、あんまり聞いちゃいけないんですけど、聞いたんで